

2015年度 関西学院初等部 学校評価を終えて

関西学院では、2008年度に初等部・中学部・高等部が共同し、一貫性と整合性のとれた学校評価制度を構築し、互いに連携をとり学校評価の実施と結果の公表に取り組んできました。

2010年度からは、関西学院が幼稚園から大学院まで連なる総合学園である強みを生かし、接続する学校の教職員でもある先生方に、専門的な視点からのご意見をうかがうことで第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。

2015年度初等部は、「キリスト教主義教育」「教育課程・学習指導」「生徒指導」「研修(資質向上の取組)」の4項目に重点を絞り、評価項目として設定しました。

評価の実施にあたっては、各項目について児童・保護者・教員にアンケートを行い(回収率①児童98.9%②保護者69.5%③教員100%)、それぞれの立場からのご意見を聞くことにより客観性を確保するとともに、多様な考えも重視しました。

今年度も各項目についてまず現状を説明し、アンケートの集計結果も参考にしながら評価／分析を加え、今後の改善の具体的方策を示し、自己点検・評価としました。

さらに、それらについて接続する学園の先生方である教育学部の1名の准教授、聖和幼稚園長、中学部長の専門的視点に基づくご意見に加え、評価情報分析室副室長のご意見を「第三者評価／学校関係者評価」とし、合わせて初等部の学校評価としてまとめました。

本日、関西学院評価推進委員会(2016年3月11日)において初等部の学校評価が協議、承認されました。

関西学院初等部は、学校評価を教職員一人ひとりが真正面から真摯にとらえ、自らの課題を探り、組織としてその課題に向かって努力しさらなる改革を図ります。

より質高き初等部の教育活動が、多くの人々から支持・信託を得るためにも、初等部に集う人々の“Mastery for Service”の精神を基にした正直さ、真面目さ、誠実さ、そして善良さが認められるステージをめざしてまいります。

2015年度初等部の学校評価を項目別に次頁以降に記し、ホームページ上で公表することにより社会的信頼を高めます。

2016年3月11日
関西学院初等部
校長 福田靖弘

学校評価

教育理念・使命・目標

【教育理念・使命】

キリスト教主義に基づく全人教育の「はじめの一步」を担う。

【目標】

キリスト教主義教育を土台とした「建学の精神」を体得し、スクールモットーである“Mastery for Service”の実現をめざし、知性・情操・意志を備えた児童を育てる。

【初等部聖句】

「幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた」

[意志]

[知性]

[情操]

【テーマ】

『夢みる心 叶える力』を育む学校

2015 年度の評価項目

- ・キリスト教主義教育
- ・教育課程・学習指導
- ・生徒指導
- ・研修（資質向上の取組）

2015 年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育 【キリスト教主義に基づく、たくましい生き方の育成】	自己評価	A
目標	建学の精神に基づき、キリスト教主義教育を初等部のあらゆる教育活動の中で展開し、児童がキリスト教の精神やスクールモットー“Mastery for Service”の精神を体得できるようにする。そのためにすべての教員、また保護者がその精神について共通理解をもち児童に向き合えるようにする。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	関西学院の建学の精神である「キリスト教主義による人間教育」を具体化するために、初等部では様々な取り組みを行っている。その土台に据えているのが毎朝の礼拝である。全校児童・教職員が毎朝チャペルに集い、聖書の言葉に耳を傾け、讃美歌を歌い、共に祈ることを通して、関西学院が大切にしてきた建学の精神やスクールモットー“Mastery for Service”を心に刻んでいる。また聖書科の授業、各宗教行事はもちろん、学校生活の様々な機会にキリスト教の精神や価値観に触れさせ、“Mastery for Service”の意味や、人としてどう生きるべきかについて考える時間を大切にしている。 今回の児童に対する学校評価アンケート項目「こころの時間や聖書の時間は、あなたにとって、大切な時間だと思いますか。」に対する肯定的な回答は 94.4%であった。このことからキリスト教主義教育が児童の中に浸透してきていることが分かる。しかしながら「まったくそう思わない」と答えた児童が若干名いることから、何故このように回答したのかを考えていくことが、初等部のキリスト教主義教育の充実につながるものと考え。 教職員もキリスト教やキリスト教主義教育についての研修会を通して、自らがキリスト教主義教育の担い手であるという自覚をもって、初等部の教育の働きを担っ		

	ている。教員への学校評価アンケート項目「私は、礼拝や研修を通してキリスト教主義教育の理念を共有している。」に対する肯定的な回答が昨年度同様 100%と全員が肯定的な回答をしており、「強くそう思う」と答えた教員の割合が今年度は5.9ポイント増加している。また「学校はキリスト教主義教育を学校生活の中で具体化している」との質問に対しても 96.3%が肯定的な回答をしており、初等部の教員として自分がキリスト教主義教育の担い手であるという自覚を強くもち、児童の教育にあたらうとする意志の表れを読み取ることができる。 保護者に対しては全学年の保護者対象の聖書講座（年間3回）に加え、PTA活動の一環として各学年ごとに「聖書に親しむ会」を実施している。これらを通して、関西学院のキリスト教主義教育について、また聖書が伝えようとしているメッセージを共に学ぶ機会をもっている。さらに新入生の保護者に対しても、入学前の2回のオリエンテーション、入学後のオリエンテーションで、初等部のキリスト教主義教育についても講話を行い、キリスト教主義教育の理念を共有する機会をもっている。保護者への学校評価アンケート項目「学校は、キリスト教主義教育の理念について、保護者と共有する機会を設けている。」に対しては、肯定的な回答の割合が過去7年間で最も多い96.3%であった。とりわけ「強くそう思う」との回答の割合が、昨年度の45.7%から52.3%と大きく増加している。全学年保護者を対象としている「聖書講座」に加えて、PTAと協力して開催している「聖書に親しむ会」が定着してきたことがその理由と考えられる。聖書講座には毎回約150名、「聖書に親しむ会」には各学年平均約45名が出席してくださっている。また「学校は、キリスト教主義に基づき、人を思いやる気持ちや態度を育てている。」との質問に対しても、肯定的な回答の割合が年々増加しており、今年度は昨年度より5.6ポイント多い92.5%の保護者が肯定的な回答をしてくださっている。キリスト教主義教育の良さを実感してくださっていることが分かる。しかし7.5%の保護者が否定的な回答をしていることも事実であり、そのことを受けとめ、初等部の教育活動の中で、さらにキリスト教主義教育を具体的に生かしていく工夫をしていく。
今後の方策	初等部の現状、また学校評価アンケートの結果を通して、大部分の児童・保護者・教員がキリスト教主義教育を肯定的に受け止めていることが分かるが、これに満足することなく、より深く、充実したキリスト教主義教育を展開していくための努力を継続していく。 毎朝の礼拝を誠実に守り続けること、また聖書科授業や様々な宗教プログラム、また各学年・クラスでの活動を児童発達段階に応じて行うことにより、キリスト教の精神やスクールモットー“Mastery for Service”の精神をより具体的に感じられるようにしていく。またすべての教員が、より深く自らがキリスト教主義教育の担い手であるという意識をもって児童・保護者と向き合っていけるような研修や取り組みを充実していく。保護者に対しても、「聖書講座」や「聖書に親しむ会」はもちろん、児童と共に礼拝に参加できる機会を積極的につくることや、ホームページ、学校だより、学級だより、学年だよりなどによってもキリスト教主義教育について繰り返し保護者に伝えていく。

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【真理を探究する確かな基礎学力の育成】	自己評価	A
目標	「キリスト教主義に基づく全人教育による人格形成」を念頭に「各教科の特性に応じた授業の工夫と児童の興味・関心に応じた授業の展開」また、「学力・体力的確かな把握」「芸術文化活動」を目指す。		

具体的な取組の状況とその効果に対する評価	【具体的な取り組みの状況】 ○児童が楽しく学習に取り組めるように、授業の方法や教材の研究を校内の授業研究会や教員の自主的な研究活動を積極的に行ってきた。 ○KGタイム（風・光・力）で、数学的思考力を高めたり、国語学習につながる書く力の向上を図ってきた。また、英語学習を1年生から先行的に行い、コミュニケーション力の向上を図ってきた。 ○「学力の的確な評価」を行うために、学期末に保護者に提示する「通知書」のあり方について検討を重ねてきた。特に、各教科の評定（1、2年は3段階、3年以上は5段階）については評価方法を明確にし、より客観的な評価であるよう努めた。 ○昨年までの「文化祭」を「音楽祭」と変え、音楽に特化した取り組みにし、「初等部の音楽」としての特色を際立たせた。文化芸術教室では、児童の興味や関心に合った人物の話や体験を実施した。また、日頃の図工授業で製作した絵画作品や立体作品を展示する「作品展」を行い、芸術の楽しさを知ったり、友だちのすばらしい一面に気づいたりする機会となった。 【学校評価アンケートによる評価】 保護者アンケート「学校は、基礎的知識や技能が定着する授業を行っている。」では81.5%の肯定的評価、保護者アンケート「学校は、基礎的知識や技能を活用する場面を取り入れた授業を行っている。」では81.4%の肯定的評価であった。また、児童アンケート「授業では、新しいことをたくさん知ることができますか。」でも肯定的評価が91.5%と高かった。教員の積極的な教材研究と授業の工夫の成果が表れていると言える。また、保護者アンケート「学校は、楽しく分かりやすい授業にするために工夫をしている。」では、89.5%の肯定的評価、児童アンケート「授業は楽しいですか。」で92.9%の肯定的評価、児童アンケート「授業はわかりやすいですか。」では、93.4%の肯定的評価と、授業の工夫が学習内容のわかりやすさや理解につながっていると言える。 保護者アンケート「学校は、子どもの学力を把握している。」では、82.9%の肯定的評価、保護者アンケート「学校は、子どもの学力を保護者にきちんと伝えている。」では、82.2%の肯定的評価であった。この結果は昨年度よりも僅かではあるがポイントを上げた。その理由としての一つ目は、昨年度実施したその学期の到達度をみる学期末テストは外部テストを導入したが、今年度は授業で身につけさせたい力は何なのかを明確にし、その力をしっかりと図るため、初等部オリジナルの学期末テストを実施したこと。二つ目は、学期末テストや通知書など初等部の評価のあり方について、学校だよりやPTA総会などで保護者に伝える機会を設けたことが挙げられる。また、教員アンケートでも「私は、児童の客観的な学力把握に努めている。」では、100%の肯定的評価、「私は、評価規準により、的確な評価を行っている。」92.3%の肯定的評価と高い。授業評価に対する教員の意識も高い。 初等部教育の特色である「KGタイム」の評価については、保護者アンケート「学校は、『風』の時間を通して、豊かに言葉を使える力を育てている。」では肯定的評価80.9%、保護者アンケート「学校は、『力』の時間を通して、論理的に思考する力を育てている。」肯定的評価77.4%、保護者アンケート「学校は、英語教育を通して、英語によるコミュニケーション能力を育てるとともに、基本スキルを定着させている。」肯定的評価63.8%であった。また、児童アンケート「『風』の時間は好きですか。」肯定的評価94.0%、児童アンケート「『力』の時間は好きですか。」肯定的評価89.8%、児童アンケート「英語は好きですか。」肯定的評価69.7%であった。英語教育については昨年に比べて、保護者アンケートでは4.2ポイント、児童アンケートでは、5.3ポイントと評価は若干上がっている。しかし、他のKGタイムに比べ低い。もちろん教科の特性の違いはあるが、2020年度小学校英語の教
-----------------------------	---

	科化が実施される中で、今一度学習内容の見直しや工夫が必要である。 保護者アンケート「学校は、音楽、美術（図工）を中心とした芸術教育を通して、子どもの豊かな感性を育てている。」では90.9%の肯定的評価を得ている。また児童アンケート「音楽や図工は好きですか。」肯定的評価95.7%と高い。日頃の楽しくわかる授業の実践だけでなく、「音楽祭」「作品展」などの学校行事での発表の場が児童にとっては目標になり、保護者にとっては児童の学校でのがんばりを感じられる場であることも高い評価の要因だと言える。
今後の方策	各教科の「授業づくり」については、前年度に比べて全体的に高い肯定的評価を得た。引き続き、研修委員会ともしっかりと連携し、よりよい授業に取り組むことが大事である。 「評価」については、まだ途上である。特に保護者にとってよりわかりやすい通知書にしていく。来年度は通知書検討委員会で評価内容や評価基準、評定のあり方など抜本的な見直しに取り組む。 「KGタイム」については、学習内容の再検討とシラバスでの明示化を行い、「KGタイム」で身につける力は何かを具体的に示す。特に、英語教育については、「楽しい英語授業」とはどのようなものか改めて見聞きし、研究するなどの研鑽を行い、来年度のシラバスに反映する。

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【児童が命の大切さを感じ、よりよい人間関係を築くことができる指導を進める。】	自己評価	A
目標	学校生活の中で、キリスト教主義教育に基づき、生命の大切さを重んじ、互いに思いやりを持ち、社会の一員として責任ある態度を高めて、よりよい生活を築いていこうとする児童を育てる。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<具体的な取組の状況> ○宗教委員会と連携し、礼拝や講話を通じ、命の大切さを伝える機会を増やす。教員が年間複数回礼拝での講話を行い、キリスト教主義教育に基づく道徳観や倫理観などを伝えるようにしてきた。 ○研修委員会と連携し、研修テーマ「“Mastery for Service”の実現へ向けて」に合わせ授業を通じた仲間づくりを図る。学院のモットーである“Mastery for Service”を念頭に、仲間づくりや思いやりのある関係構築を意図すると同時に、それらを生かした学びを授業に取り入れようと研修を進めてきた。今年度の西日本私立小学校教育研修会や校内での研究授業などで実践を重ねてきている。 <その効果に対する評価> ・教員対象アンケートでの質問「学校はキリスト教主義教育を学校生活の中で具体化している。」に対する「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教員の割合(2014年96.4%→2015年度96.3%) ・教員対象アンケートでの質問「私は、研修部の教員研修計画に基づき、授業研究や公開授業を実施している。」に対する「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教員の割合(2014年96.4%→2015年度96.2%) ・保護者対象アンケートでの質問「学校は、命の大切さや望ましい仲間関係の育成などについて、指導している。」に対する「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合(2014年度83.7%→2015年度85.1%)、「まったくそう思わない」と回答した保護者の割合(2014年度2.5%→2015年度2.4%) ・教員対象アンケートでの質問「私は、児童間の人間関係を円滑にするための配慮、指導をしている。」に対する「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教員の割合(2014年度100.0%→2015年度100.0%)		

	・保護者対象アンケートでの質問「学校は、子ども同士の人間関係に配慮しながら指導している。」に対する「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合(2014年度 69.2%→2015年度 78.0%) ・教員対象アンケートでの質問「私は、命の大切さや良好な人間関係をつくることなどについて、学校生活の中で指導している。」に対する「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教員の割合(2014年度 96.4%→2015年度 96.3%) ⇒教員からの回答では昨年に引き続き、さまざまな機会を生かし、命の大切さや仲間づくりを進めてきたことが分かる。また、保護者の回答では、特に注目していた「学校は、命の大切さや望ましい仲間関係の育成などについて、指導している。」において肯定的な回答が90%以上に届かなかったが、昨年に比べて微増し85%を上回った。また、保護者対象アンケートでの質問「学校は、子ども同士の人間関係に配慮しながら指導している。」に対する肯定的回答が8.8ポイント向上している。これまでの取組の成果が結果となって表れてきている。今後も継続していくことで、さらなる成果を求めたい。
今後の方策	これまで同様、礼拝や講話、授業研修などのあらゆる場面で命の大切さや仲間づくりの良さを意識した取り組みを続けていく。 今後、教員自身が取り組みを振り返る機会を増やし、継続して意識を高められるようにする。機会としては、「日々の指導に関する振り返り」を毎月行う教師会の学事委員会からの議案に取り入れ、指導に関する意識を向上させる。

評価項目 【テーマ】	研修（資質向上の取組） 【“Mastery for Service”の体現を目指す ～かかわり合いの質を高める】	自己評価	B
目標	新基本構想にまとめられたミッションステートメントの主旨には、「他者への関心と思いやり」が“Mastery for Service”を支えるとある。そこには「他者と対話し共感する能力」や「よりよい世界の創造」というキーワードが配されている。初等部での教育活動が、こうした力の獲得を目指すものであることを常に確認し続け、それに応えうる教員集団としての資質向上を目指す。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	具体的な取り組み内容 【西日本私立小学校教員研修会会場校としての参加・公開授業】 第57回にあたる西日本私立小学校教員研修会の会場校として、18の領域における公開授業を行った。1000人規模の参観者を受け入れ、授業を公開し、初等部が目指す教育について基調提案を行った。この会に向けて、昨年度末より授業案を練り、目指す教育について語り合った。授業において子どもが積極的にかかわり合う姿を見せることで我々の考えを世に問うことができた。 【校内研修 公開授業】 同学年を中心とした研究グループを形成し、事前検討会、研究授業、事後研究協議会を行った。年間一度は全員が授業を公開している。今年度はそのうちの2本について全教員参加での協議会を行い、教科の本質およびかかわり合いの質の向上について意見を交わした。 【校内研修 その他】 今年度は「危機管理」について外部講師を招へいした。また校内教員の専門分野を活かした「特別支援研修」「ICT活用研修」「美文字研修」などを複数企画し、教員全員で受講した。また「児童情報交換会」「キリスト教研修」「救命救急法講習」など、必要な研修を例年通りに行った。 【学校公開会の実施】 全国の教員に対して、初等部の学校生活を公開する。約500名の参観者に対し合		

	計 20 本の授業が公開され、そのうち 6 本は事後協議会を開く。子どもたちの「対話し共感する」姿を見ていただき、貴重な意見をいただく機会となる。会の当日だけでなく、それまでの議論の重なりが初等部の子どもたちの学びに還元されることをねらいとする。 取組内容に関しての評価・分析 児童に対する「学校は楽しいですか。」という問いにおいて、肯定的回答が 94.6% という高い値を示した。授業をはじめとする学校生活全般で、子どもたち同士のかかわり合いが機能していることの裏付けと言えよう。「授業はわかりやすいですか。」についても 93.4% という値になっており、学習理解に対する評価は高い。ただし、「対話し共感する」ことで「よりよい世界を創造」してほしいと願う我々の研修目標から考えるならば、「授業では、自分から進んで、友だちと話し合ったり、考えたり、まとめたりしていますか。」という項目の値が気になる。現在 84.7% の値が今後いかに上がっていくかに注目したい。保護者の評価に目を移すと、「学校は、基礎的知識や技能を活用する場面を取り入れた授業を行っている。」という項目は 81.4%。「学校は、楽しく分かりやすい授業にするために工夫をしている。」という項目も 89.5% となっているが、「強くそう思う」を選択されている方が 41.0%（前年度 30.2%）と大幅に上昇した。時間をかけ工夫してきていることが子どもたちを通して保護者に伝わり始めていることを感じる。この「分かりやすさ」は、知識の伝達の巧みさだけで生まれるものではない。他者との豊かなかかわり合いの中で、発見や納得が生まれる経験が不可欠だ。つまり、我々は“Mastery for Service”の体現を目指すことで、よりよい学びが創造できると信じている。ただし、今見ている数字の裏側にある「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と感じている方々の存在を忘れてはならない。一人でも多くの児童・保護者が知的にも情情的にも満足できる授業づくり・学級づくりを目指す。
今後の方策	教員に対する次の質問「私は、授業研究を積み、質の高い魅力的な授業を展開できるよう努めている。」に対しては前年度同様にほぼ 100%に近い数値を示している。中でも「強くそう思う」を選んだ教員が 53.8%（前年度 46.4%）となり、徐々にベクトルが揃ってきていることを実感する。これも研修の成果の一部ではあるが、最も大切な点は、子ども自身の満足度の向上・学力の向上を検証することである。 学校生活への満足度に関しては毎年 2 回、外部のアンケート分析を実施している。結果を学年教員団で共有し、学級経営・学年経営に活かしている。今後もこの取り組みは継続し、子どもの内面を少しでも理解し、研修の成果を確かめたい。教科に関する一般的な学力においては外部模試の導入によって客観的な指標を得ている。細かな結果を分析し、研修計画に活かしていきたい。また、中学部とのより一層の連携をとりながら追跡調査を行い、今後の研修計画を調整する。 本年度は授業以外のテーマ「危機管理」について外部講師を招へいしたが、各教員にとって価値のある学びとなった。今後もアンガーマネジメントやファシリテーションなど、多様な研修を行うと同時に、「キリスト教」に関する理解をより一層深め、関学人として成長できる研修を企画する。

（自己評価）

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

総合評価

「キリスト教主義教育」は昨年度に引き続き、児童、保護者、教員から高い評価を得ている。「聖書に親しむ会」、「聖書講座」などに加え、日々の礼拝や聖書科授業の積み重ねの成果である。

「学習指導・教育課程」では、わかりやすい授業が評価されている。「研修」での取り組みもよい影響を与えている。初等部の教育課程の特色の一つであるKGタイムに対する評価は年々高くなってきているが、改善の余地は残されている。KGタイムで身につけるべき力をより具体的に児童が手ごたえを感じることでできる時間としていきたい。

「生徒指導」については、指導を推進する学事委員会のリーダーシップのもと、教員全員で一つ一つ丁寧に指導しようとする意識が高まってきている。

保護者アンケート「初等部の教育には満足している。」という項目において83.9%（前年度76.2%）を記録するなど、全体的な評価は上がってきている。開校以来、キリスト教主義を土台とした建学の精神やスクールモットー“Mastery for Service”を大切に教育活動を展開してきたことが保護者や児童の共感につながり、徐々に結果として表れてきていると考えられる。

2015年度の評価をふまえて2016年度に予定している評価項目、テーマ等

- ・キリスト教主義教育
- ・教育課程・学習指導
- ・生徒指導
- ・研修（資質向上の取組）

第三者評価／学校関係者評価

授業の始まる前の朝の礼拝に参加させていただきました。全校児童、教職員がチャペルに集い、共に聖書の言葉に耳を傾け、讃美歌を歌い、祈ることはキリスト教主義教育にとって大切なことです。これからも誠実に守り続けることを願います。

教職員は礼拝、研修会を通して、キリスト教主義教育の理念を共有していること、保護者にはさまざまな機会を通して関西学院のキリスト教主義教育、聖書のメッセージを共に学ぶ機会をもたれていることは、高く評価できます。今後も、学校生活のすべてにおいて、一人ひとりに目を向け、愛情深いキリスト教主義教育の実践が充実するように望みます。

「各教科の特性に応じた授業への工夫と児童の興味・関心に応じた授業展開」は先生たちの教材研究、授業の工夫といった努力が高い評価に現れていると思います。授業では児童の様々な考え方、意見を取り上げ、また、机上だけではなく体験を通して授業を展開されていました。「キリスト教主義に基づく全人教育における人格形成」において、児童自身が自分で考えること、自分で調べることは大切な要素の一つです。アンケートの「授業では、自分から進んで、友だちと話し合ったり、考えたり、まとめたりしていますか。」で84.7%の児童が肯定的な回答をしています。しかし、それ以外の児童について、なぜこのような回答をしたのか考えていくことが授業のよりいっそうの充実につながると思います。

学校生活を参観させていただいて、児童たちがお互いに思いやる気持ちが、態度で見られる場面がたくさんありました。日常の学校生活においてキリスト教主義教育に基づき、生徒指導がなされていると感じました。高く評価できます。生徒指導は、礼拝、講話、授業を通して「伝える」という具体的な取り組みも大切ですが、日常の出来事に児童、先生たちがどのように関わるのか、児童と先生が「共に考える」姿勢も大切だと思います。

教員の資質向上の取り組みである研修は、児童のためのものです。児童に対するアンケート「学校は楽しいですか。」の肯定的な回答が94.6%であることから、先生たちの努力が高い評価に現れてい

ます。今後もこの努力を継続してほしいと願っています。また、今後の方策でも記述されていますが、キリスト教主義教育の更なる充実のための努力と研鑽を期待します。

授業参観に訪れた時の児童の明るい笑顔が印象的でした。積極的な授業の工夫、研修会との連携などにより、児童が楽しく学習できる取り組みをされ、多くの児童が授業がわかりやすいと述べていることは素晴らしいことと思います。今後、さらなる学習指導の工夫・改善に努めていただきたいと思います。

今後の対策のところで述べられているように、「KGタイム」と「英語」が課題としてあげられると思います。KGタイムは初等部の教育の特徴だと思いますので、効果が十分に上がらない理由をさらに明確化し、目的・内容の再検討をして、高い評価が得られることを目指してほしいと思います。英語については、保護者の期待が大きいので低い評価になりがちだとは思いますが、コミュニケーションの楽しさの追求と同時に、言葉の技能を根気よく身につけさせる工夫をし、さらなる充実を期待したいと思います。また、アンケートの「どちらかといえばそう思う」は広い範囲を包含しており、幾分か否定的な意味も含まれていますので、その項目をより深く検討し、教育の向上に努めてほしいと思います。

学校内を参観していると、進んで挨拶をする児童が数多くいました。また、授業や休憩時間における児童の表情を見ると、どの児童にも明るさを見てとることができました。他者とかかわる上での基本となる「挨拶」という行為が普段からできていることや、学校内で無意識に出る「表情」が良い傾向にあることに、キリスト教主義教育、学級経営、生徒指導、教科指導等の取り組みが充実しているのだと想起されます。

アンケートの結果は、全般的に良い結果でした。各項目の評価が年々高くなっていることに、教職員による日々の研鑽を感じることができます。

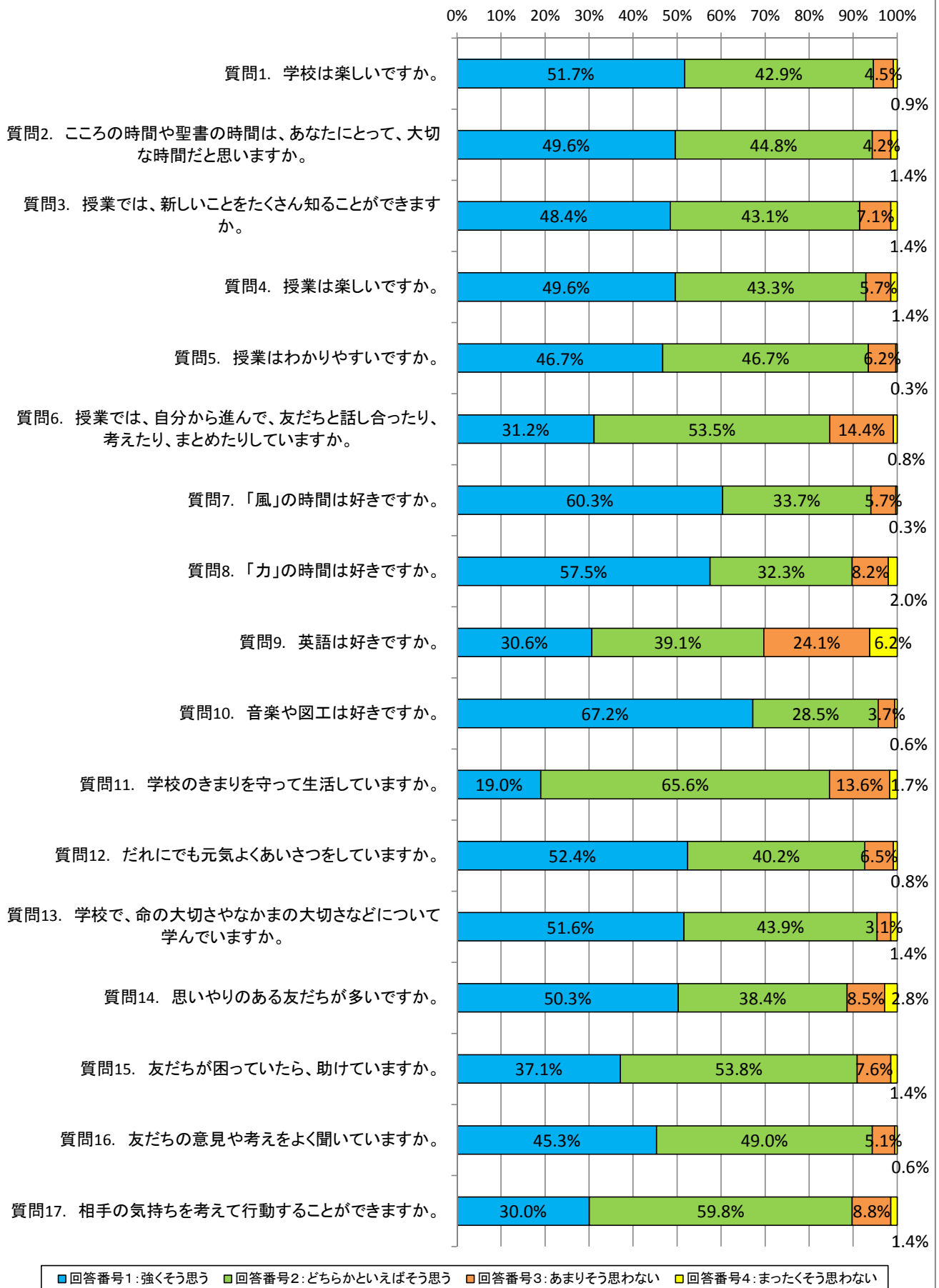
児童を対象としたアンケートでは、「学校は楽しいですか。」という問いにおいて肯定的回答が94.6%、「授業はわかりやすいですか。」は93.4%、「授業では、新しいことをたくさん知ることができますか。」は91.5%、「音楽や図工は好きですか」は95.7%という値になっており、高く評価できます。

「英語は好きですか。」という問いにおいても、肯定的回答が7割程度あり、良い結果だと言えます。ただし、3割の児童が英語の授業に難しさを感じていることには注意が必要です。英語の授業の何が「好き」という回答から遠ざけているのか、何が「わかりやすさ」の達成を難しくさせているのかを、教員間で細やかに分析・検討する必要があります。英語教員だけでなく、他教科・他領域を専門とする教員との連携のもと、「言語活動の充実」や「学び合い」の観点などを基盤にした英語の授業を展開することが求められます。

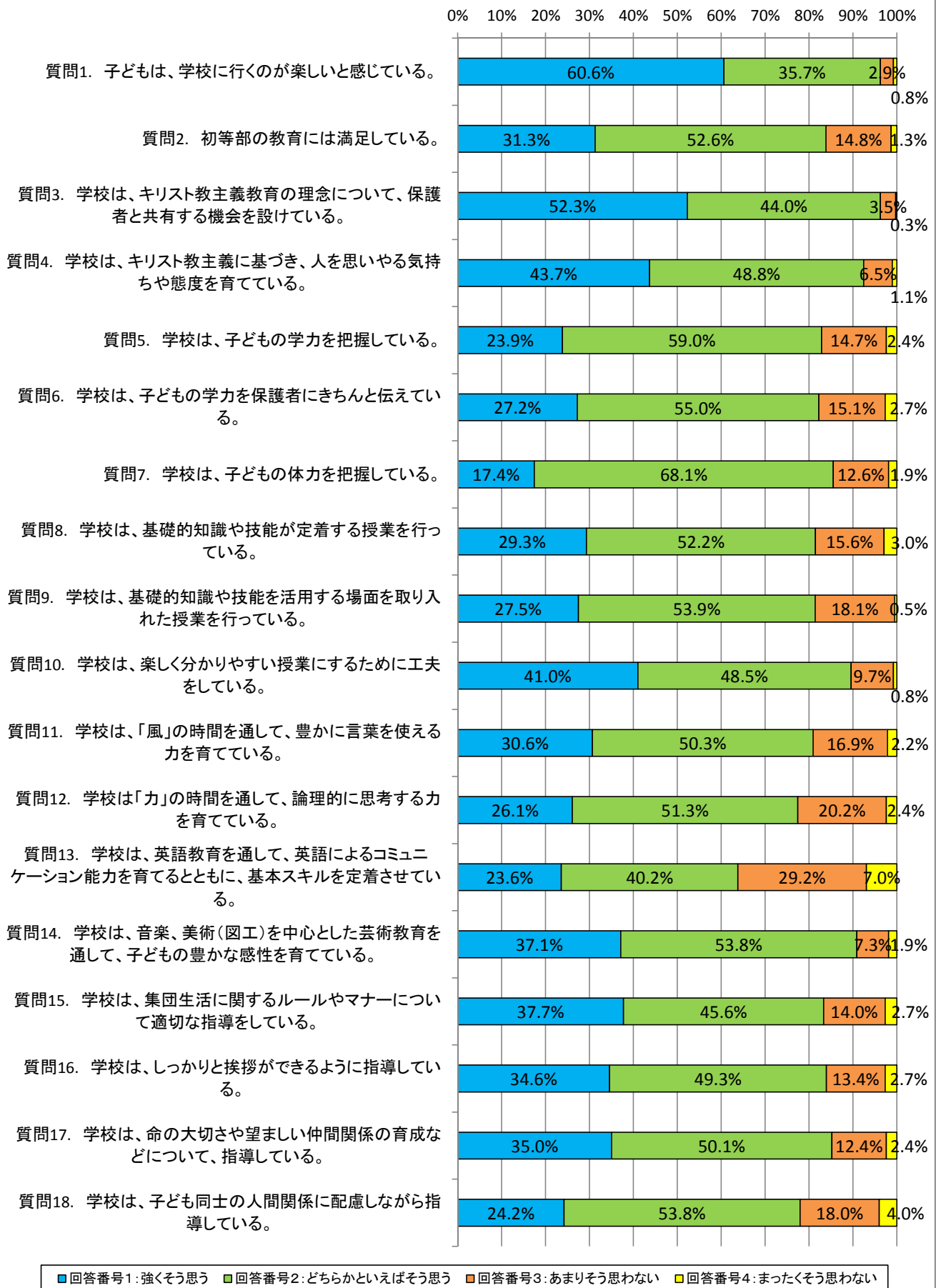
関西学院の教育の根本であるキリスト教主義教育について、非常に高い割合で児童や保護者、教員の理解があることは、初等部の教育の軸のぶれないゆるぎなさを示していると思います。礼拝に向かう児童たちの姿や、児童礼拝での児童たちの素直なメッセージの言葉には、聴く者の心を揺さぶるものがあります。また、教科指導については、先生方の熱心な研修への取り組みの結果、授業に対する児童の興味関心を高いものにしていることが、アンケートの数字からわかります。特に、クラス集団作りの基本となる、児童たちの人間関係に細かく配慮しているポイントが高いのは、教員集団が生徒一人ひとりを大切にしようとする姿勢の表れです。本当に頭が下がる思いです。

児童たちの生活にしっかり寄り添い、見届ける教育が小学校でも大切だと感じます。初等部の先生方が目指しておられることが、確実に実を結んでいることを、今回のアンケートからうかがい知ることができますので、ますますチームワークよく、児童たちの教育に自信とゆとり、使命感を持って臨んでほしいと願います。

2015年度 学校評価アンケート集計結果
初等部・児童3年生～6年生（回収率 98.9% 353人/357人中）



2015年度 学校評価アンケート集計結果
初等部・保護者（回収率 69.5% 373人/537人中）



2015年度 学校評価アンケート集計結果
初等部・教員（回収率 100% 27人/27人中）

